

呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (案)

若年層の定着 ～若年層が集い、にぎわうまちづくり～ を目指して

平成 2 8 年 3 月

広島県 呉市

呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 目次

第1章 総論

1 はじめに

- (1) 呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 総合戦略の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (3) 総合戦略の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2 まち・ひと・しごと創生を取り巻く環境

- (1) 人口動向と将来見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 人口動向の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 市民の希望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (4) 今後の対応の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (5) 将来人口の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

3 まち・ひと・しごと創生に向けて

- (1) 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (2) 呉市の特性（呉らしさ）を活かしたまち・ひと・しごと創生の実現・・・ 8
- (3) 基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) リーディングプロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4
- (5) P D C Aサイクルの確立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4

第2章 各論

1 【基本目標1】働きやすさの向上（しごとづくり）

- (1) 「呉らしさ」を活かした雇用創出の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 0
- (2) 具体化方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 2

2 【基本目標2】育てやすさの向上（ひとづくり）

- (1) 子育て・子育てしやすい環境づくりの方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 4
- (2) 具体化方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 5

3 【基本目標3】暮らしやすさの向上（まちづくり）

- (1) 魅力的な住生活環境創出の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 7
- (2) 具体化方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 8

4 まち・ひと・しごと創生の実現に向けて

- (1) 多様な主体との連携方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 0

5 リーディングプロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 2

第1章 総論

1 はじめに

(1) 呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の趣旨

呉市は、平成22年度（2010年度）に、平成32年度（2020年度）を目標年次とする第4次呉市長期総合計画を策定し、『絆』と『活力』を創造する都市・くれ～協働による自主的で自立したまちを目指して～」を将来都市像として掲げるとともに、平成23年度（2011年度）から平成27年度（2015年度）までを期間とする第4次呉市長期総合計画前期基本計画を策定し、将来都市像の実現に向けての「重点プロジェクト」や、その他市政全般に係る「基本政策」の方向性及び代表的な施策を明示し、様々な取組を行ってきました。

しかし、人口減少は、当初の想定をはるかに超える速さで進行しており、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」といいます。）が平成25年3月に公表した「日本の地域別将来推計人口」によると、平成52年（2040年）における呉市の人口は約16万2千人で、平成22年と比較して約7万8千人（33%減）減少すると見込まれています。

こうした状況は全国的な課題となっており、人口の減少に歯止めを掛けるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正することを目的として、国は、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）」（以下「法」といいます。）を制定するとともに、50年後の展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と今後5年間の政府の施策の方向性を示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定しました。この中で政府は、50年後に1億人程度の人口を維持することを目標として掲げ、地方に、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することにより、地方への新たな人の流れを生み出すとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境を創り出していくことを謳っています。

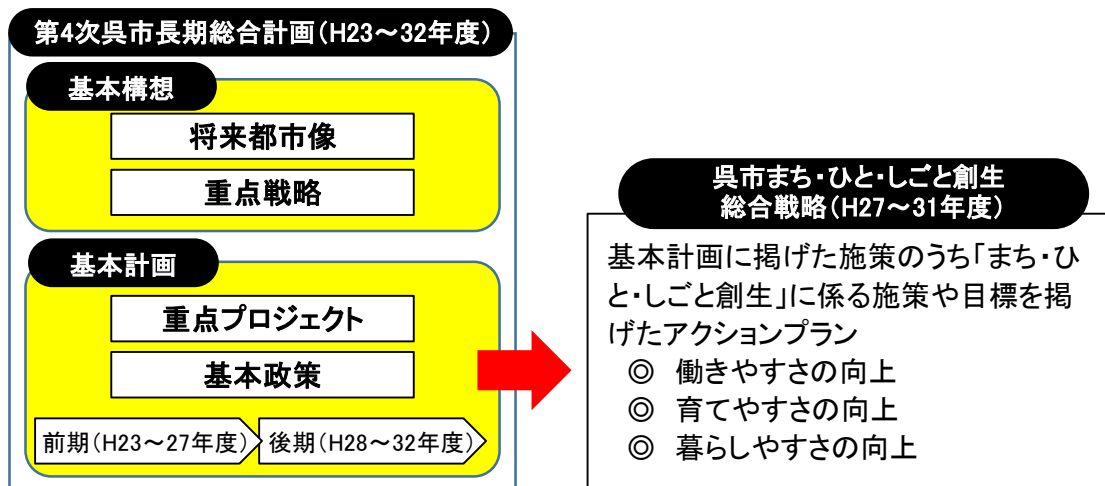
呉市においても今後、少子高齢化の更なる進展に伴い、社会・経済を支える人口構造の改善が求められる中、特色ある地域資源を活かした新たな魅力・価値の創造による雇用創出や子育て・子育てしやすい環境づくり、魅力的な住生活環境の創出などを通じて若年層の市内定着や出生数の増加を図り、人口減少を抑制することにより、将来にわたり豊かで活力あふれるまちづくりを推進していく必要があります。

こうした状況を踏まえ、法第10条に基づく呉市の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画として、呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」といいます。）を策定するものです。

(2) 総合戦略の位置付け

総合戦略は、第4次呉市長期総合計画に掲げた施策のうち、平成27年度（2015年度）から平成31年度（2019年度）までの5年間で重点的に取り組む「まち・ひと・しごと創生」に係る施策や目標を掲げたアクションプランとして位置付けるものです。

図1 第4次呉市長期総合計画と呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の関係

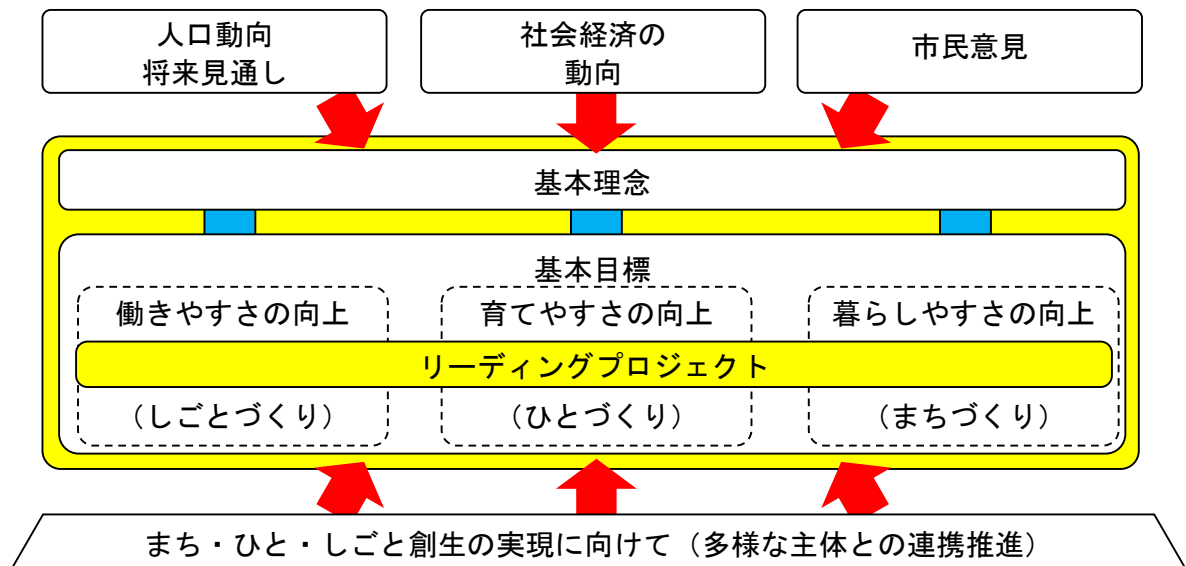


(3) 総合戦略の構成

人口や社会経済の動向など市政を取り巻く環境を踏まえ、まち・ひと・しごと創生に関する基本理念や基本目標を定めるとともに、基本目標の達成に向け取り組む施策や主な事業、重要業績評価指標（KPI）を明らかにしていきます。

また、特に重点的に取り組む事業について、まち・ひと・しごと創生に係るリーディングプロジェクトとして位置付け、積極的に推進するとともに、民間など多様な主体との連携を図りながら、まち・ひと・しごと創生の取組を充実させていきます。

図2 総合戦略の構成

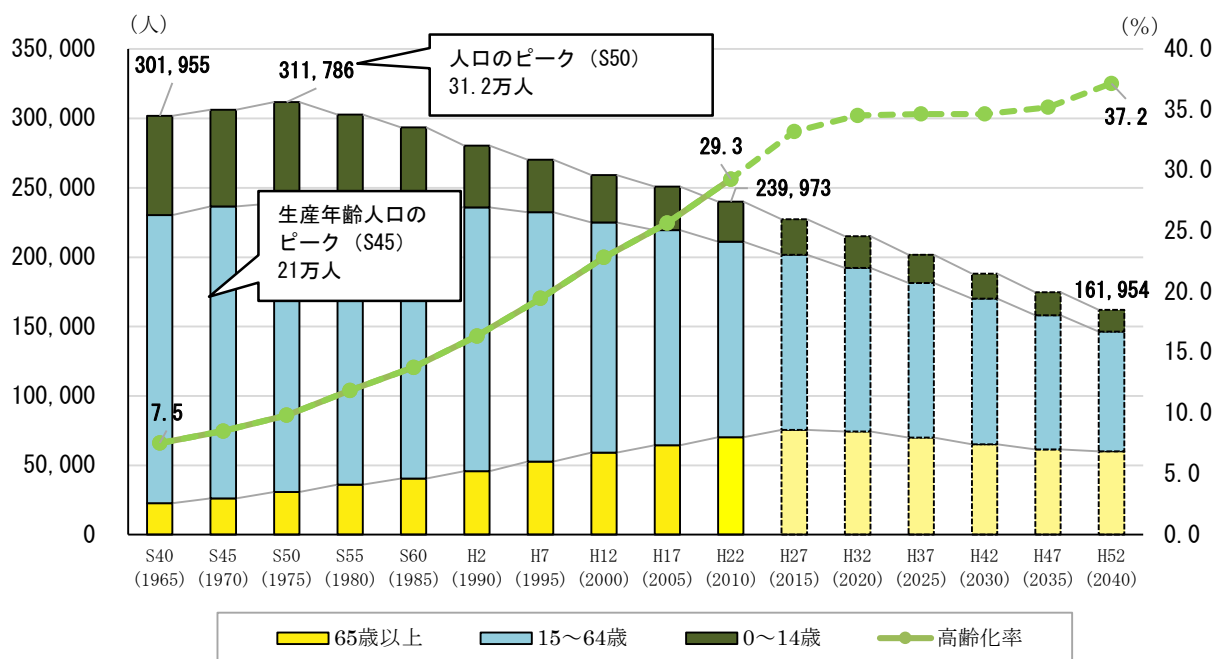


2 まち・ひと・しごと創生を取り巻く環境

(1) 人口動向と将来見通し

呉市の人口は、昭和50年（1975年）をピークに減少を続けており、平成22年（2010年）には約24万人となっています。社人研によると、この傾向は今後も続き、このまま何も対策を講じなければ、平成52年（2040年）には約16万2千人にまで減少すると見込まれています。

図3 呉市の人口動向と将来見通し



※昭和40（1965）年～平成22（2010）年までは、総務省統計局「国勢調査」（各年10月1日）、平成27（2015）年以降は、社人研「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」
 ※平成17（2005）年以前の人口は、合併町についても、呉市に合算している。平成22（2010）年までは、総人口と各年齢区分の合計を一致させるため、年齢不詳者を各年齢区分により按分し集計

(2) 人口動向の分析

人口の自然減、社会減とも、年1,000人以上で推移しています。

自然減の要因は、未婚化・晩婚化など、若者の結婚や出産に対する意識の変化や若年層の転出に伴う減少による「出生数の減少」であると考えられます。

また、社会減の要因は、都市部（東京都、広島市など）への仕事を理由とする転出や、近隣都市（東広島市や広島市など）への住宅事情を理由とする転出など「転出数の高止まり」であると考えられます。

図4 呉市の人口動態

年度	人口	増減	自然動態		社会動態			
			出生	死亡	増減	転入	転出	増減
H17	255,028	▲1,837	1,854	2,950	▲1,096	8,946	9,687	▲741
H18	252,939	▲2,089	1,800	2,918	▲1,118	8,616	9,587	▲971
H19	251,008	▲1,931	1,866	3,091	▲1,225	8,792	9,498	▲706
H20	249,212	▲1,796	1,875	2,881	▲1,006	8,077	8,867	▲790
H21	247,168	▲2,044	1,873	2,917	▲1,044	7,731	8,731	▲1,000
H22	244,714	▲2,454	1,863	3,119	▲1,256	7,073	8,271	▲1,198
H23	242,252	▲2,462	1,793	3,067	▲1,274	6,882	8,070	▲1,188
H24	239,401	▲2,851	1,721	3,119	▲1,398	7,054	8,507	▲1,453
H25	236,856	▲2,545	1,690	3,135	▲1,445	7,105	8,205	▲1,100

※ 呉市の世帯と人口（住民基本台帳） 社会動態には住所設定等を含む。平成23年度以前については、住民票（日本人住民）及び外国人登録の計

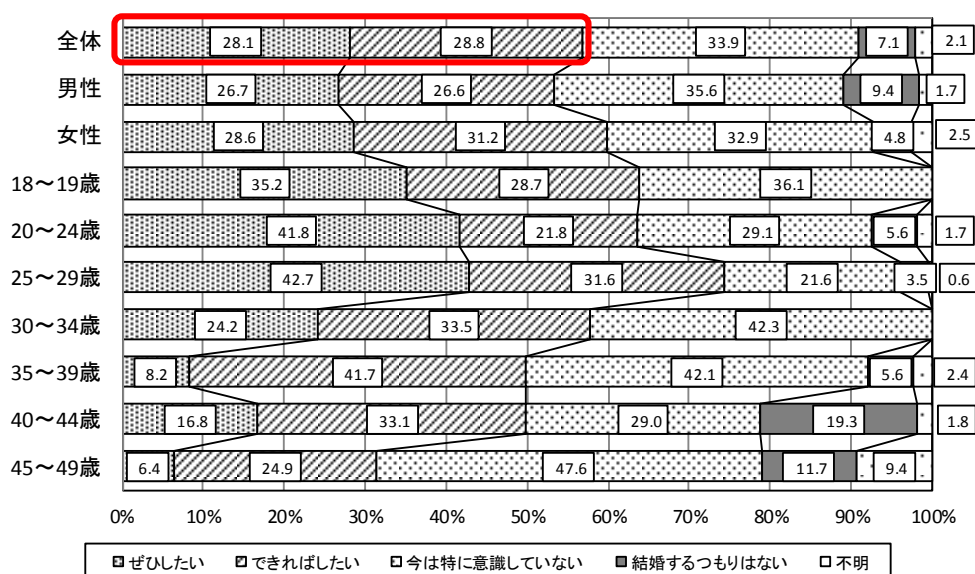
(3) 市民の希望

ア 結婚・出産・子育てに関する意向

呉市に居住する18歳から49歳までの男女3,000人を対象に行った「結婚・出産・子育てに関するアンケート調査（平成27年度）」の結果によると、結婚に関して、未婚者の6割は、今後の結婚への希望を持っています。

また、結婚している人が欲しい子どもの数は、2.44人となっているほか、子育てをする上での困りごととして「出産や育児にお金がかかる」や「仕事と子育ての両立が難しい」を挙げた人が多く、「保育料や教育費などの負担軽減」や「長時間保育や病児保育が可能な保育施設の拡充」、「医療費補助や扶養控除などの優遇措置」などを求める声が多くなっています。

図5 結婚の希望（回答者全員）



イ 進学・就職に関する意向

市内の高校3年生を対象に行った「高校生の定住志向に関するアンケート調査（平成27年度）」の結果によると、進学を希望する高校生の6割が呉市を含む広島県内への進学を希望し、就職を希望する高校生の5割が呉市内、4割が呉市外の広島県内での就職を希望するなど、高校生の地元志向が窺えます。

図6 進学を希望する地域（進学希望者）

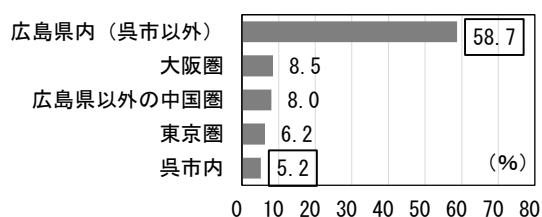
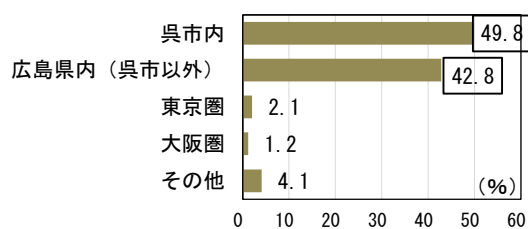


図7 就職を希望する地域（就職希望者）



ウ 定住・移住に関する意向

呉市民意識調査（平成26年度）の結果によると、7割の市民が呉市への愛着を感じているとともに、6割を超える市民が今の居住地に住み続けたいと思っています。

また、東京都・大阪府在住で20歳から69歳までの男女1,000人を対象とした「移住希望に関するアンケート調査結果（平成27年度）」によると、2割の人が地方への移住希望を持っており、そのうち半数は呉市も移住先の候補地の一つとして検討してみたいと回答しています。

図8 市民の呉市への「愛着」

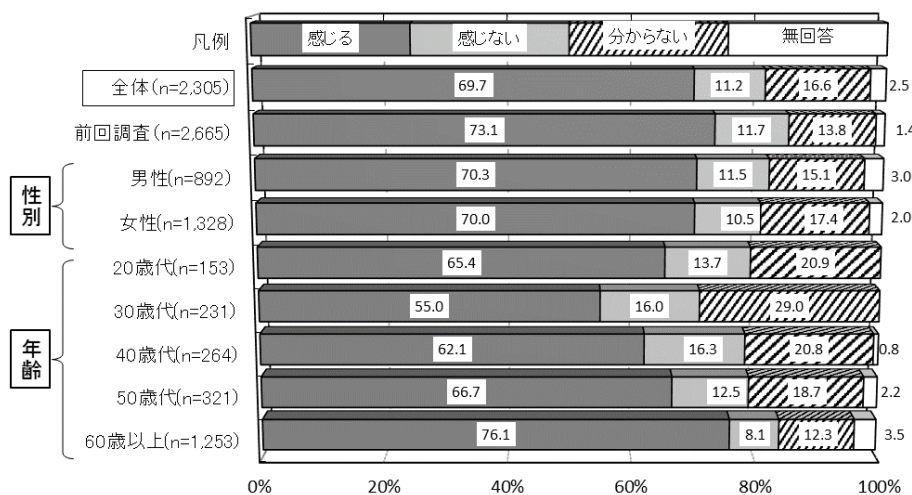


図9 地方への移住希望

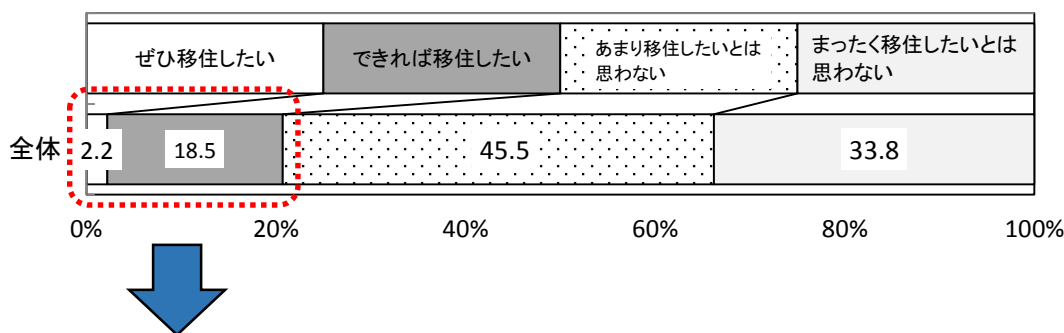
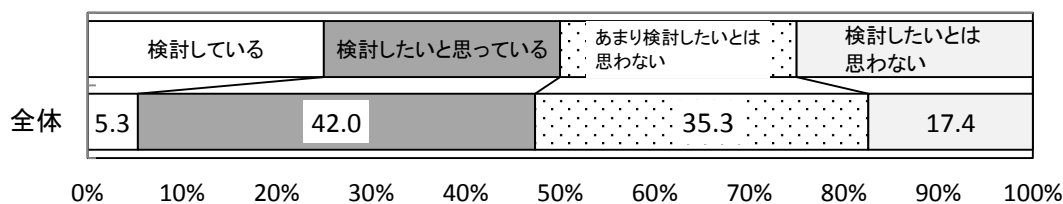


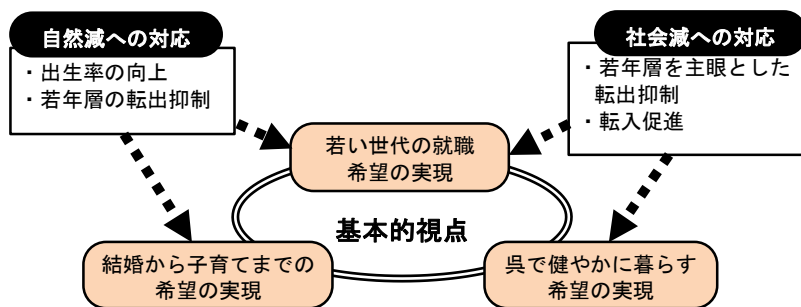
図10 呉市への移住希望（地方への移住希望者）



(4) 今後の対応の方向性

人口動向や市民の意向等を踏まえ、自然減，社会減の両方を念頭に置きながら，若い世代の就職希望や結婚から子育てまでの希望，呉で健やかに暮らす希望など，市民の希望を実現するための施策を展開することにより，人口減少に歯止めを掛けていきます。

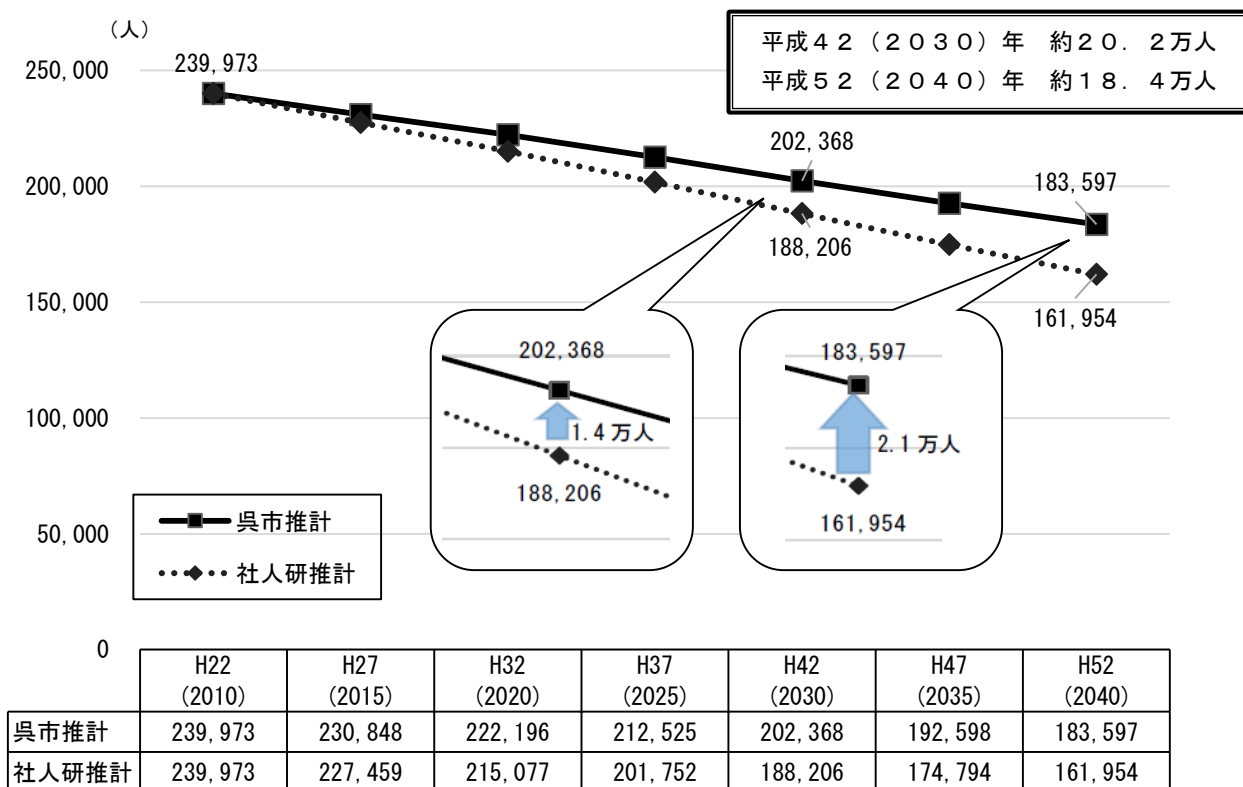
図 1 1 今後の対応の方向性



(5) 将来人口の展望

人口動向や市民等へのアンケート調査結果を踏まえ，市民の希望を実現するための施策を展開することにより，呉市の将来人口を次のとおり展望します。

図 1 2 呉市の将来人口推計



3 まち・ひと・しごと創生に向けて

(1) 基本理念

呉市の人口減少の最も大きな要因は、若年層の社会減にあります。若年層は、呉市の産業や消費、地域づくりを支える重要な存在であり、このまま減少が続くと、にぎわいの低下が避けられません。若年層の減少に歯止めを掛け、新たな活力を創造することが、呉市のまち・ひと・しごと創生を進める上での最重要課題です。

このことから、「**若年層の定着 ～ 若者が集い、にぎわうまちづくり ～**」を基本理念に据え、若年層をターゲットとした「しごとづくり」、「ひとづくり」及び「まちづくり」に特に力を入れることにより、呉市の特性（呉らしさ）を活かしたまち・ひと・しごと創生を目指していきます。

(2) 呉市の特性（呉らしさ）を活かしたまち・ひと・しごと創生の実現

呉市は、「ものづくりのまち」であると同時に、「多彩な地域資源に恵まれたまち」「都市基盤が充実したまち」であり、一人一人が生活する上で重要な、一定以上の都市機能（高次都市機能）を有する「総合都市」と言えます。また、「教育・子育て環境の充実」「高齢化の進展」「『地域力の向上』への挑戦」など、他都市には見られない呉市の特色も兼ね備えています。

こうした安定した都市基盤や多くの特色が「呉市の特性（呉らしさ）」であり、「呉らしさ」を最大限活かした地方創生に積極的に取り組んでいきます。

(3) 基本目標

基本理念や呉市の特性を踏まえ、

【基本目標1】 働きやすさの向上（しごとづくり）

【基本目標2】 育てやすさの向上（ひとづくり）

【基本目標3】 暮らしやすさの向上（まちづくり）

の3つの基本目標を掲げるとともに、**多様な主体との連携**を図りながら、まち・ひと・しごと創生を目指していきます。

図13 呉市の特性（呉らしさ）

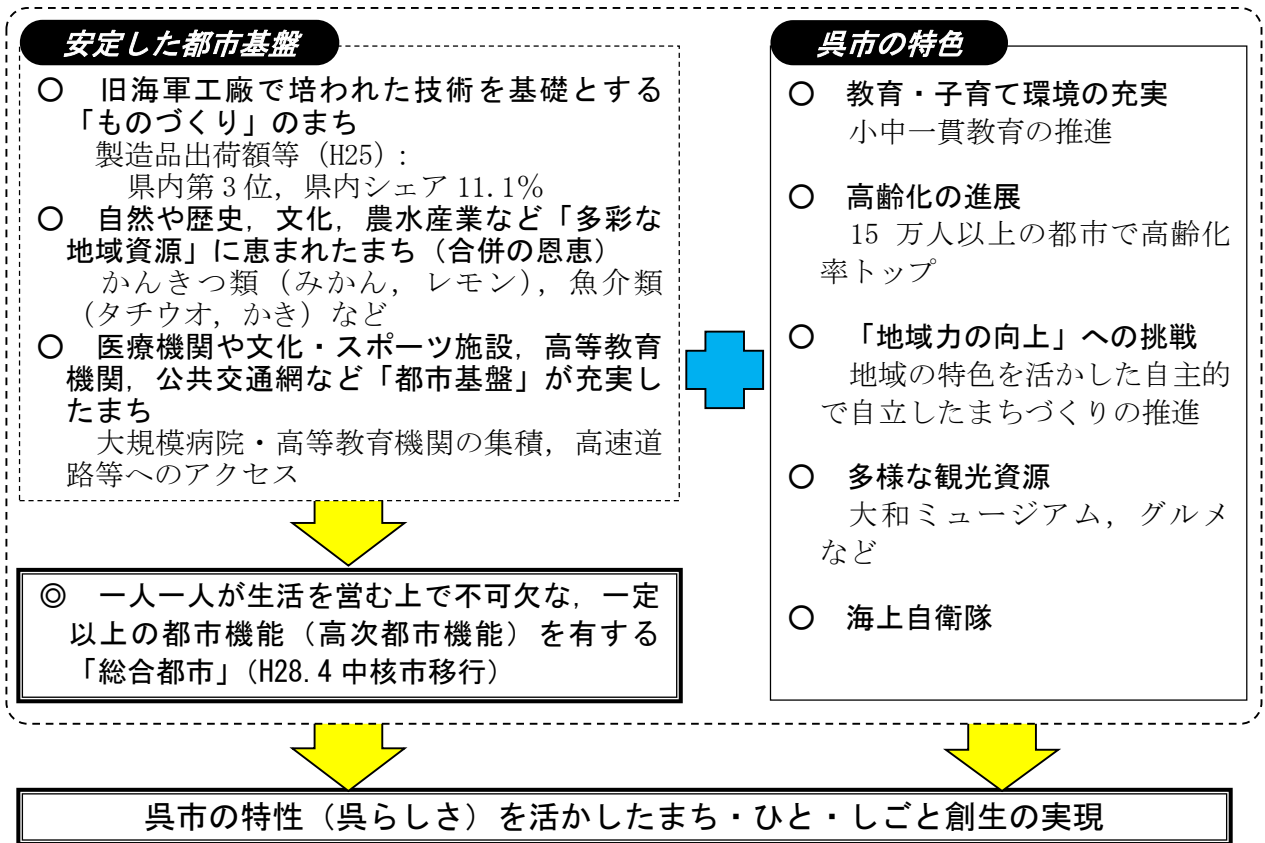
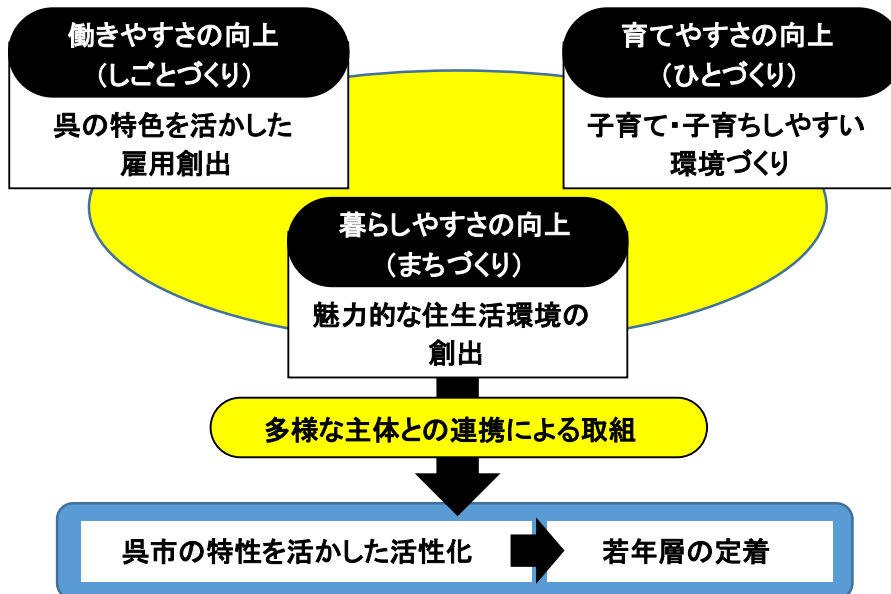


図14 基本目標



【基本目標 1】働きやすさの向上（しごとづくり）

呉市の人口の社会減の最も大きな要因は「仕事を理由とする転出超過」にあり、特に若年層（20～30歳代）においてその傾向が顕著となっています。

産業や消費を支える若い世代の定着等による更なる活性化を図るため、呉らしさ（呉の特色）を活かした雇用創出に積極的に取り組んでいきます。

(1) 産業の競争力強化

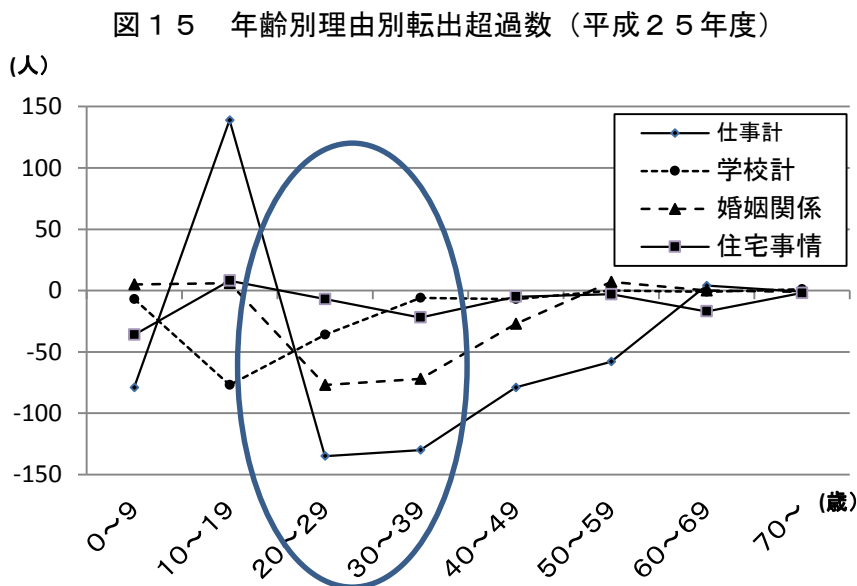
呉市の産業が、生産性の向上や需要の拡大を目指して取り組む商品の高付加価値化や技術の高度化、サービスの魅力拡大などへの支援を充実して行うことにより、産業活動における高い収益性の実現を図っていきます。

(2) 人材の発掘・育成

呉市の産業を支える担い手の発掘・育成への支援を充実して行うことにより、産業基盤の底上げを図るとともに、若年層を始め女性や高齢者など、多様な人材が生き生きと活躍できる場を創出していきます。

(3) 情報発信の強化

呉らしさや呉市の産業の魅力を分かりやすく発信することにより、呉市への定住を選択し市内で働く人を増やすとともに、交流人口の拡大を図っていきます。



※ 広島県『人口移動アンケート調査』（呉市分）を呉市において集計

【基本目標2】育てやすさの向上（ひとづくり）

呉市の人口の自然減の大きな要因は、「非婚化・晩婚化の進展」、「若年女性の減少」と、それに起因する「出生数の減少」にあります。

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、子どもと子育て世代でにぎわうまちを創り出すため、子育て・子育てしやすい環境づくりに積極的に取り組んでいきます。

(1) 結婚から妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援

若い世代の結婚に対する気運を高めるとともに、安心して妊娠・出産・子育てをすることができるよう総合的に支援することにより、子育てに対する不安や負担の軽減を図り、少子化の進行に歯止めを掛けていきます。

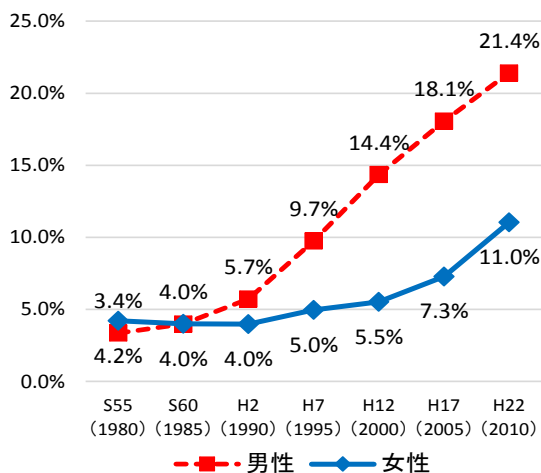
(2) 子育て支援

核家族化や働き方の多様化に伴う様々な保育・子育てニーズへの対応を充実させることにより、社会全体で子育て世代を応援し、安心して子育てすることができる環境を創出するとともに、女性の社会参加を促進していきます。

(3) 教育環境の充実

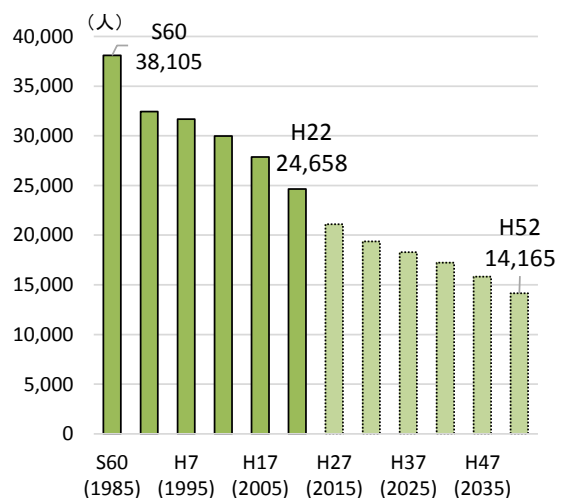
呉の教育の特色である小中一貫教育の更なる推進を図るとともに、呉市の特性を活かした教育活動として、市内の企業や高等教育機関等と連携した本物体験等の体験活動を充実させ、「確かな学力」、「豊かな心」及び「健やかな体」を育てていきます。

図 1 6 呉市の生涯未婚率の推移



※総務省[国勢調査]を基に算出した。45～49歳と50～54歳未婚率の平均（50歳時の未婚率）

図 1 7 呉市の若年女性人口の推移と推計



※昭和30（1955）年～平成22（2010）年までは、総務省統計局「国勢調査」（各年10月1日）、平成27（2015）年以降、社人研の『日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）』
※平成17（2005）年以前の人口は、合併町についても、呉市に合算している。

【基本目標3】暮らしやすさの向上（まちづくり）

呉市の人口の社会減の要因の一つに「住宅事情を理由とする転出超過」があり、より良い住宅・居住環境を求めて近隣都市へ転居するケースが多くなっています。また、他地域からの移住による「転入増」を図っていくことも重要です。

温暖な気候や自然，歴史，文化，充実した都市機能など，呉市の特色の幅広い情報発信により，これまで以上に多くの市民に呉市を定住の地として選択してもらうとともに，呉市への移住を促進し，多世代がにぎやかに暮らせるまちを創り出すため，働く場の創出や子育て・高齢者支援施策などとも連携した魅力的な住生活環境の創出に積極的に取り組んでいきます。

(1) 総合的な定住サポート

定住サポートセンターの総合窓口化を推進し，情報提供や相談体制の充実を図ることにより，定住・移住の促進に結びつけていきます。

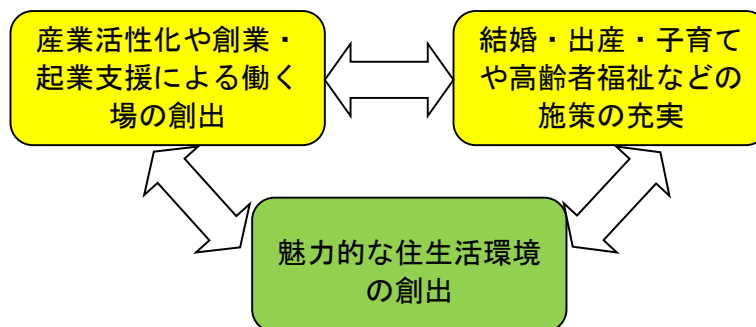
(2) 定住・移住促進

若年層が住宅を取得しやすいよう支援するとともに，空き家の利活用を促進することにより，市外への転出抑制と市外からの転入促進を図り，人口社会減の抑制に結びつけていきます。

(3) 生活環境の充実

地域ぐるみの健康づくり活動や支え合いの拠点づくりを支援することにより，住み慣れた地域で心身ともに豊かで活力あふれる生活環境を創出していきます。

図18 暮らしやすさの向上に向けた施策の連携



まち・ひと・しごと創生の実現に向けて ～多様な主体との連携推進～

まち・ひと・しごと創生の実現に当たっては、民間が持つ力を最大限に活かしていくことが極めて重要です。

市民や地域、大学（高等教育機関）、医療機関、企業、金融機関などが持つ特性（強み）を活かしながら、地方創生に向けたより良い成果を生み出すことができるよう、積極的に後押ししていきます。

(1) 地域との連携の推進（地域の拠点の形成推進）

身近な地域で住民の生活に必要な生活サービス機能を確保するとともに、にぎわいを創出することができるよう、多様な主体との連携による地域の拠点づくりを推進していきます。

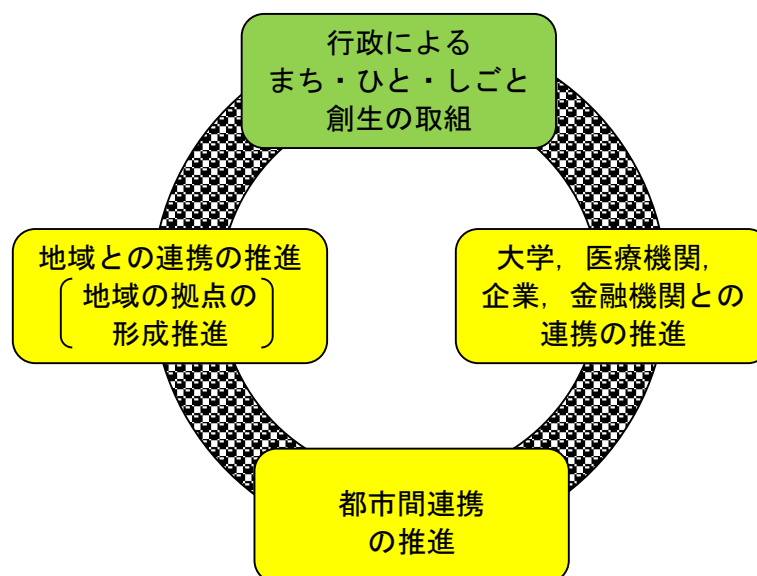
(2) 大学、医療機関、企業、金融機関との連携の推進

行政が関与しにくい専門的な分野について、大学や医療機関、企業、金融機関との連携により取り組んでいきます。

(3) 都市間連携の推進

各都市が持つ特性を活かし、新たな魅力を創出するため、近隣都市や旧軍港市との連携を推進していきます。

図 19 多様な主体との連携推進



(4) リーディングプロジェクト

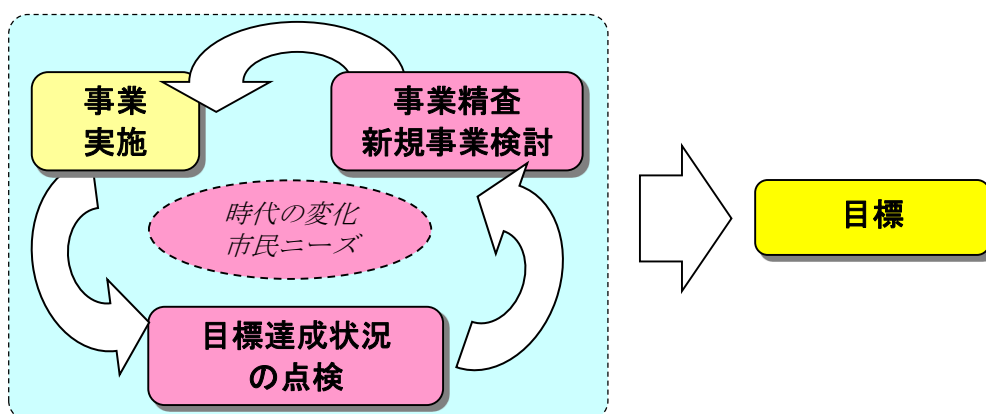
基本理念として掲げた「若年層の定着」の実現に向け取り組む事業のうち、特に重点的に取り組む必要がある事業について、まち・ひと・しごと創生に係る**リーディングプロジェクト**として位置付け、積極的に推進していきます。

(5) PDCAサイクルの確立

総合戦略に掲げる目標の達成に向け、多様な主体と連携しながら、市を挙げて施策の推進に取り組むとともに、毎年度、目標の達成状況を点検します。

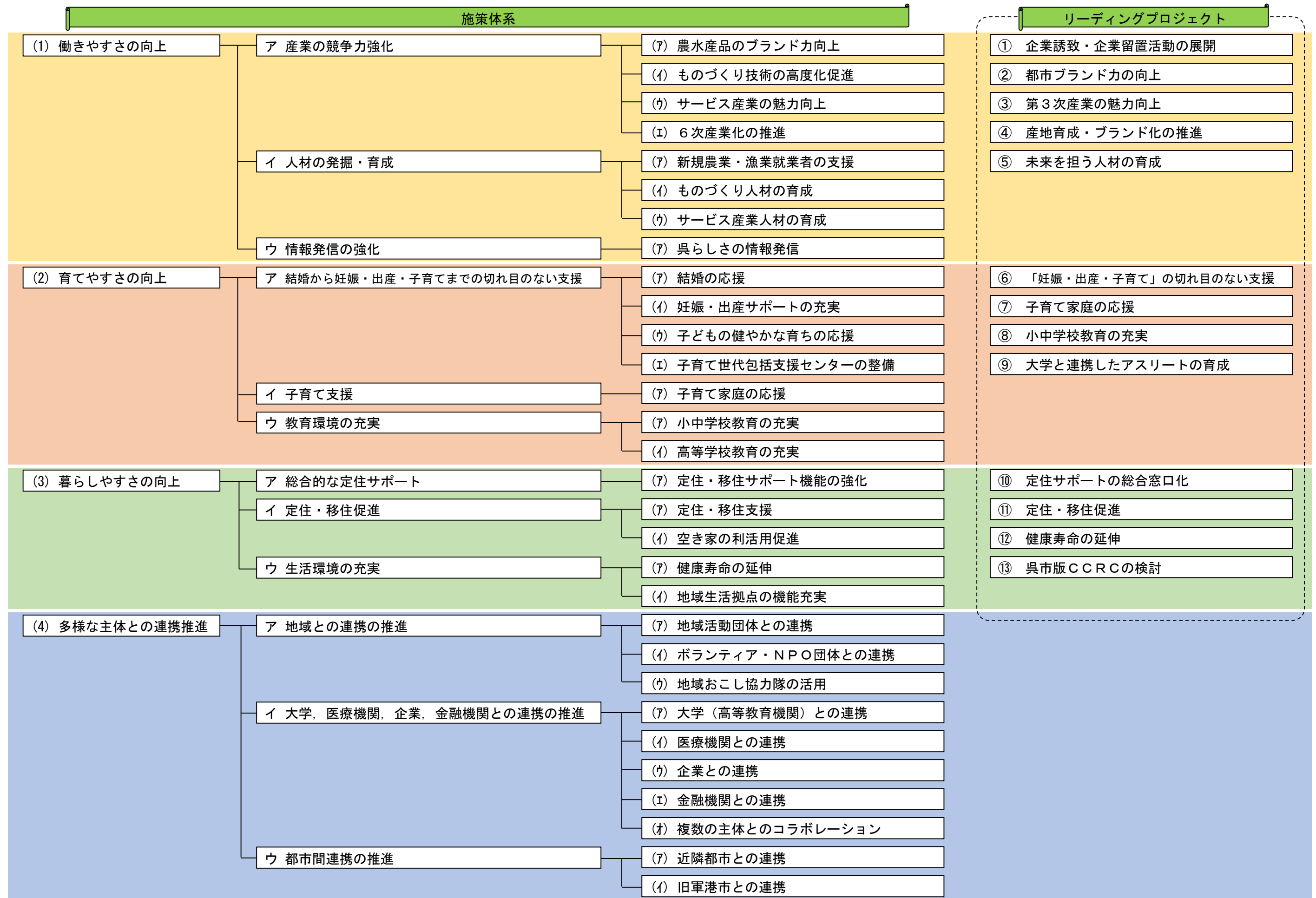
また、点検した内容について、産業界、行政、高等教育機関、金融機関、労働者団体、報道機関、地域団体等に属する有識者で構成する「呉市総合計画審議会」や市議会に報告し意見をいただくとともに、必要に応じて総合戦略の内容を見直し、予算編成に併せて改定していきます。

図20 PDCAサイクル（イメージ）



第2章 各論

基本理念：若年層の定着
若者が集い、にぎわうまちづくり



1 【基本目標1】働きやすさの向上（しごとづくり）

(1) 「呉らしさ」を活かした雇用創出の方向性

ア 呉市の産業の特色と課題

(7) 第1次産業

温和な気候で自然環境に恵まれた呉市は、全国に誇るブランドとなっているみかんや国産レモンの発祥地として名高いレモンなどのかんきつ類，トマトや広カンランなどの野菜，ちりめんやタチウオ，そしてむき身生産量日本一のかきなどの水産物を始め，特色ある豊富な農水産物に恵まれています。

こうした農水産物は，過疎地域における活力の源となっています。第1次産業従事者比率（平成22年国勢調査ベース）は，呉市全体で2.7%であるのに対して過疎地域では26.7%と相対的に高くなっており，特色ある農水産物の生産や加工，流通，販売などを通じて，地域の活性化が図られています。

一方で，後継者不足などによる第1次産業従事者の減少が著しい中，ブランド力の向上や新たな担い手の確保などを通じて生産性を高め，農水産業の経営基盤の強化を図る必要があります。

(イ) 第2次産業

呉市は終戦後，旧軍用財産の転活用を図ることにより，造船，鉄鋼，機械金属，パルプ産業などの製造業（ものづくり産業）を中心とした工業技術の集積を図ってきました。

市内総生産における第2次産業の割合は，旧特例市平均が25.1%であるのに対して呉市は41.9%と高く（平成23年市民経済計算），製造品出荷額等や付加価値額も県内第3位（平成25年工業統計調査）と高い水準にあります。こうした状況の下，呉市の経済はもとより，瀬戸内海における有数の工業都市として，また県南西部地域の中心都市として，広島県の産業経済の発展をけん引しています。

ものづくり産業は呉市の産業の要であり，今後，こうした技術の高度化や新たな人材の育成など，ものづくり技術の継承・発展に取り組む必要があります。

(ウ) 第3次産業

平成15年から平成17年にかけての近隣8町との合併により、呉市は美しい自然や歴史、文化、地域産業など、特色ある多くの地域資源を有することとなりました。開館10年で来館者数1,000万人を突破した呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）を始め、これらの資源を背景とした観光振興に積極的に取り組んでいます。

一方で、市内総生産のうち第3次産業生産額は、旧特例市平均が6,409億円（構成比73.7%）であるのに対して、呉市は6,326億円（構成比57.4%）となっています（平成23年市民経済計算）。特に、地域経済への貢献度が大きい商業を取り巻く環境は、人口千人当たりの従業者数が広島県平均を下回るとともに、購買力が0.78と広島市（1.12）や東広島市（1.09）と比較してかなり低い状況にある（平成24年経済センサス）など、比較的低下水準となっています。

こうした第3次産業は、今後発展の余地が大きく残されており、社会ニーズを踏まえながら産業基盤の底上げを図る必要があります。

イ 推進方針

呉市の産業構造の特性に応じた施策を展開することにより、先人が築き上げた産業技術の継承・発展と新たなニーズを踏まえた産業基盤の底上げを一体的に図り雇用を生み出す都市を目指します。

その具体化方策として、「産業の競争力強化」「人材の発掘・育成」「情報発信の強化」の三つの視点を念頭に置きながら、産業や地域の特色を踏まえた多角的な雇用創出に取り組んでいきます。

「呉らしさ」を活かした雇用創出

= 産業の競争力強化 + 人材の発掘・育成 + 情報発信の強化

【目標】 20～30歳代の「仕事」理由の転出超過数 3分の2改善

(2) 具体化方策

ア 産業の競争力強化

(7) 農水産品のブランド力向上	
<p>効果的なイベントの開催や販売戦略の検討などを通じて農水産品のブランド化を推進し、競争力の高い産地の育成を図っていきます。また、呉を代表する農水産品の認知度向上に向けたPRイベントの開催などにより新たな販路を開拓し、地域の活力向上を図っていきます。</p>	
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 農水産品のブランド化推進（広カンラン、オニオコゼ、オリーブ等のブランド化推進等） 農水産品の販路拡大 農水産業を支える基盤の整備（漁場整備等）
目標	<p>新たな販路開拓数 H27～H31：200件</p> <p>呉の特産として認知する市民が50%を超える農水産品数 H26：3品 → H31：8品</p>
(イ) ものづくり技術の高度化促進	
<p>企業誘致に積極的に取り組むとともに、既存企業への支援により産業の集積と雇用の場の創出を促進していきます。また、ものづくり技術の高度化・高付加価値を促進し、地域産業を活性化していきます。</p>	
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な企業誘致・留置活動の展開（企業立地の推進、本社機能の移転等促進、市内企業の設備投資促進等） 新産業・新技術開発へのチャレンジ支援（産学官連携による新製品・新技術の開発支援、地域産業の活性化支援、医工連携の推進等）
目標	<p>産業団地への新たな立地企業数 H27～H31：10件</p> <p>新たな設備投資に伴う新規雇用従業員数 H27～H31：240人</p> <p>新製品・新技術開発支援件数 H27～H31：20件</p>
(ウ) サービス産業の魅力向上	
<p>大和ミュージアムや瀬戸内海の多美島など地域の特色を活かした魅力向上に取り組み、交流人口の拡大を図っていきます。また、消費ニーズに応じた商業活動を支援し、消費拡大とにぎわい創出に結び付けていきます。</p>	
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 都市ブランド力の向上（戦艦「大和」のふるさと・くれブランド向上事業、日本遺産の登録申請、観光プロモーションの展開等） 魅力ある観光・商業環境の創出（商業施設等の活性化支援、周遊・滞在型観光の推進、観光資源のブラッシュアップ等）
目標	<p>新規出店件数・島しょ部における新サービス実施件数 H27～H31：80件</p> <p>入込観光客数 H26：308万人 → H31：340万人</p> <p>1人当たり観光消費額 H26：6,061円 → H31：6,370円</p>

(I) 6次産業化の推進	
<p>特色ある地域資源（レモン、かきなど）を活かした6次産業化を推進することにより、しごとづくり（担い手確保）や耕作放棄地の有効活用、ブランド力の強化など、総合的な事業展開により地域経済の活性化を図っていきます。</p>	
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある地域資源を活かした新たなプロジェクトの推進（呉市産酒米の増産推進，【再掲】農水産品のブランド化推進等）
目標	6次産業化事業数 H27～H31：5件

イ 人材の発掘・育成

(7) 新規農業・漁業就業者の支援	
<p>農業・漁業の技術習得や経営安定化の支援，地域への定住支援などを行い，新規農業・漁業就業者の定着に結び付けていきます。</p>	
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 新規農業・漁業就業者支援（新規就業者の着業・定着支援，シルバー漁師の育成等）
目標	新規農業・漁業就業者数 H27～H31：30人

(イ) ものづくり人材の育成	
<p>企業の事業拡大のためのセミナー等を開催し雇用の拡大を図るとともに，くれ産業振興センター等との連携による創業支援により，ものづくり技術の継承と発展を促進していきます。</p>	
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 雇用拡大・創業へのチャレンジ支援（創業支援の充実，地域雇用の創造支援（雇用拡大セミナー等），呉の産業マイスターの表彰等）
目標	創業支援事業計画・実践型地域雇用創造事業に基づく新規雇用者数・創業者数 H27～H31：735人

(ウ) サービス産業人材の育成	
<p>商業や観光，福祉・医療を始め，サービス産業に従事する多様な人材を発掘・育成することにより，若年層を始め，女性や高齢者など，多様な人材が生き生きと活躍できる場を創出していきます。</p>	
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の活用（福祉医療人材（介護・看護・保育）養成確保奨学金制度の創設検討，呉のおもてなし気運の醸成・向上，障害者の就労施設における共同作業の推進等）
目標	福祉医療人材（介護・看護・保育）養成確保奨学金制度の創設

ウ 情報発信の強化

(7) 呉らしさの発信	
<p>呉らしさ（呉市の特性）や呉市の産業の魅力を分かりやすく，かつ人々の心をつかむよう積極的に情報発信することにより，呉市への定住を選択し市内で働く人を増やすとともに，交流人口の拡大を図っていきます。</p>	
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> シティプロモーションの推進（総合的なシティプロモーションの展開，呉の産業PR事業推進，【再掲】定住・移住情報の発信等）
目標	呉市内に就職した地元高校生の割合 H26：60% → H31：65%

2 【基本目標2】育てやすさの向上（ひとづくり）

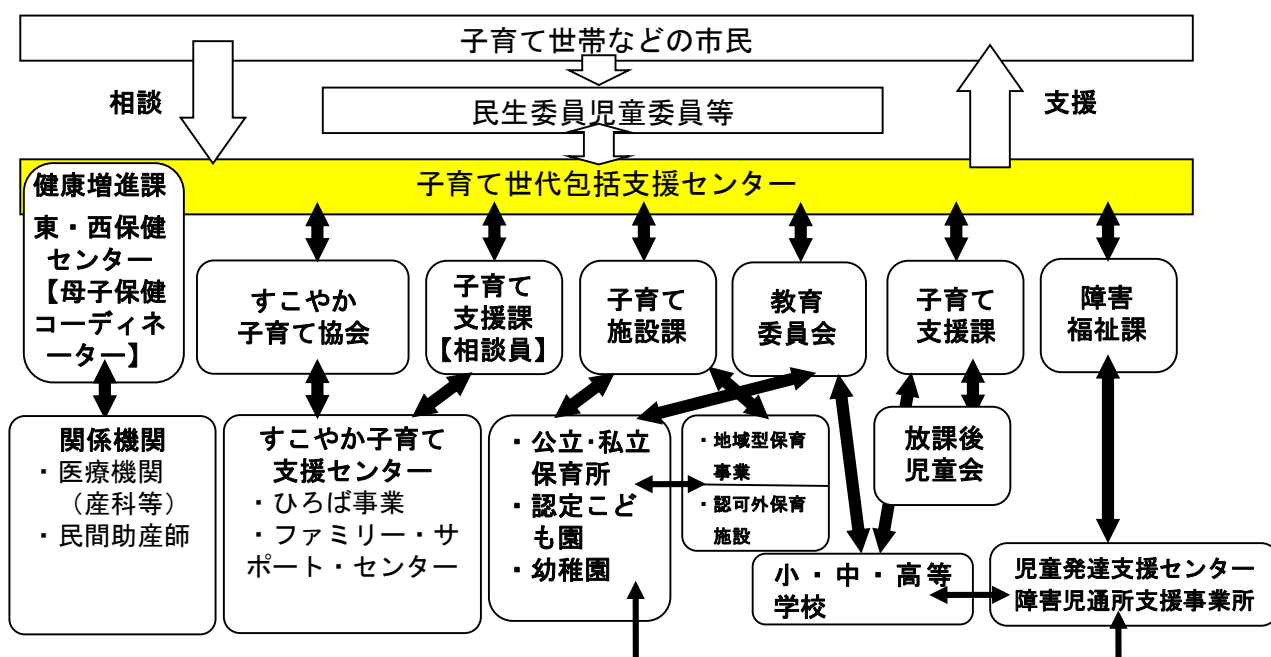
(1) 子育て・子育てしやすい環境づくりの方向性

ア 子育て世代への包括的な支援の必要性

核家族化や地域のつながりの希薄化等により、地域において妊産婦やその家族を支える力が弱くなっており、妊娠、出産及び子育てに係る不安や負担を抱えている妊産婦やその家族への支援が切実な課題となっています。

こうした中、妊娠期から子育て期までの様々なニーズへの対応を包括的に行う体制を整備し、安心して子どもを産み育てることができる環境を創り出す必要があります。

図21 子育て世代への包括的な支援体制（イメージ）



イ 推進方針

結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援の強化・充実をさせる施策を展開することにより、若いうちに結婚を考え家庭を持つ気運を醸成するとともに、子育て世代が安心して子どもを産み育てることができる都市を目指します。

その具体化方策として、「ライフステージに応じた切れ目のない支援」、「子育て支援」、「教育環境の充実」の三つの視点を念頭に置きながら、多様な主体の協働による子育て・子育てしやすい環境づくりに取り組んでいきます。

子育て・子育てしやすい環境づくり

= 切れ目ない支援 + 子育て支援 + 教育環境の充実

【目標】年間出生者数 H31: 1,800人

(2) 具体化方策

ア 結婚から妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援

(7) 結婚の応援	
若者の前向きな結婚観や家族観を醸成する講座やイベント等を開催することにより、婚姻件数の増加を目指していきます。	
主な事業	・ 結婚支援の推進（結婚支援（結婚出前講座，若者交流セミナー，出会いサポーター研修等））
目標	結婚支援事業参加者のカップル成立数 H27～H31 63組

(イ) 妊娠・出産サポートの充実	
妊産婦の健康診査や出産を控えた家族向けの講座などを充実させることにより、安心して出産に臨むことができる環境を整備していきます。	
主な事業	・ 妊娠・出産サポートの充実（妊産婦の健康診査・保健指導等の充実（歯科健康診査，風しん予防接種助成等），不妊治療医療費の助成等）
目標	妊婦に対する子育て支援プランの作成・保健指導の実施率 H31：100%

(ウ) 子どもの健やかな育ちの応援	
乳幼児の健康診査や乳幼児及び保護者の相互交流の場づくりなどの充実を通じて、子どもの健やかな成長を支援していきます。	
主な事業	・ 乳幼児の健康づくり支援や集いの場の充実（乳幼児の健康診査，遊育空間の整備（低年齢児用遊具の設置），地域子育て支援拠点の充実），男性の子育て参加の促進
目標	地域子育て支援拠点数 H26：9箇所 → H31：12箇所

(エ) 子育て世代包括支援センターの整備	
妊産婦やその家族を総合的に支援する拠点（呉市版ネウボラ ^{※1} ）を整備することにより、妊娠期から子育て期までの様々なニーズに対応していきます。 ※1：フィンランド語で「アドバイスの場」を意味する。	
主な事業	・ 子育て世代包括支援センターによる妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援（総合相談，関係団体との連絡調整等）
目標	子育て中にストレスを感じる親の割合 H25：87.4%→H31：82.0% 子育て世代包括支援センターにおける相談件数 H31：800件

3 【基本目標3】暮らしやすさの向上（まちづくり）

(1) 魅力的な住生活環境創出の方向性

ア 空き家の有効活用

国土交通省は、賃貸・売却用住宅や二次的住宅（別荘など）を除く全国の320万戸の空き家のうち、簡単な手入れをするだけで利活用可能なものは15%（48万戸）程度であると推計しています。

呉市には、賃貸・売却用住宅や二次的住宅（別荘など）を除く空き家が約1.6万戸あると言われており、現在、その実態を把握するための調査を行っています。調査の結果、活用可能な空き家であると判定された建物については、適切な管理・保全を行っていただくとともに、有効活用できるよう、所有者との連携を進める必要があります。

一方、倒壊等により近隣や道路等への危険防止策を講じる必要がある建物については、呉市空家等の適切な管理に関する条例に基づき除却を促進し、安全・安心な住生活環境を確保する必要があります。

イ 推進方針

「我が家」という夢を持つ世代が、呉市でその希望を実現したいと思うような施策や、呉市での暮らしを希望する市外住民が安心して移住することができるような施策を展開することにより、多くの人に定住の地として選ばれる都市を目指します。

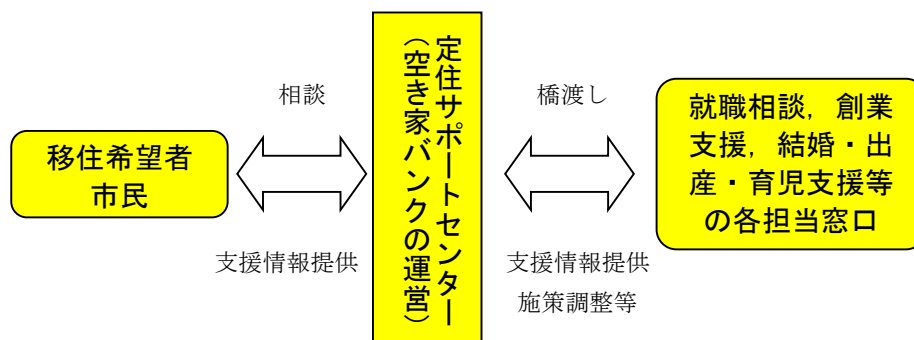
その具体化方策として、「総合的な定住サポート」「定住・移住促進」「住生活環境の充実」の三つの視点を念頭に置きながら、定住・移住がしやすい環境づくりに取り組んでいきます。

魅力的な住生活環境の創出

= 総合的な定住サポート + 定住・移住促進 + 住生活環境の充実

【目標】呉市を住みよいと感じる市民の割合 H26：70% → H31：80%

図22 定住サポートのスキーム



(2) 具体化方策

ア 総合的な定住サポート

(7) 定住・移住サポート機能の強化	
民間事業者（宅建業者等）や庁内関係部署等との連携を強化し、定住・移住を支援する定住サポートセンターの総合窓口化により、定住・移住希望者への情報提供や相談体制の充実を図っていきます。	
主な事業	・ 定住サポートセンターの充実（定住・移住情報の発信，民間事業者・関係機関との連携強化，定住・移住後のサポートの充実等）
目標	定住サポートセンター問合せ件数 H27～H31：1,000件

イ 定住・移住促進

(7) 定住・移住支援	
若年層が市内で住宅を取得しやすいよう支援することにより、定住人口の増加に結び付けていきます。 また、移住希望者のニーズに即した住宅の取得等を支援することにより、市内への転入者の増加に結び付けていきます。	
主な事業	・ 子育て世帯の定住支援（中古住宅取得支援，親世帯との近居支援） ・ 移住希望者の住宅取得支援（中古住宅取得支援，子育て世帯支援，親世帯との近居支援，島しょ部移住支援等）
目標	若年層の住宅取得件数 H28～H31：200件 移住希望者の住宅取得件数 H28～H31：80件

(イ) 空き家の利活用促進	
市内の空き家の実態を把握し空き家バンクへの登録を促進することにより、空き家の有効活用と危険住宅への移行抑制を図っていきます。 また、定住・移住希望者等による空き家バンク登録物件等の利活用を支援することにより、空き家の流通促進と定住・移住人口の増加に結び付けていきます。	
主な事業	・ 空き家バンクの充実（空き家実態調査，所有者意向調査，空き家バンクへの登録促進） ・ 空き家の利活用支援（空き家家財道具等処分支援，学生シェアハウス支援等，【再掲】子育て世帯の定住支援，【再掲】移住希望者の住宅取得支援）
目標	空き家バンク登録物件の成約件数 H27～H31：70件

ウ 生活環境の充実

(7) 健康寿命の延伸	
<p>少子高齢化が更に進展する中，地域ぐるみの健康づくり活動や地域包括ケアシステムの構築などにより，全ての市民が心身ともに健康で元気な状態を長く維持することができる「健康長寿日本一のまち」を目指していきます。</p>	
<p>主な事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ぐるみの健康づくりの推進（地域総合チーム医療の推進，地域包括ケアの推進，スポーツを通じた健康づくり等） ・ 呉市版CCRCの検討
<p>目標</p>	<p>平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加</p>

(イ) 地域生活拠点の機能充実	
<p>地域住民が主体となって取り組む「特色ある地域資源を活かした地域の活性化」や「地域固有の課題の解決」を支援することにより，地域の「つながり」や人々の心の「絆」を育む「安心して暮らせる地域づくり」を促進していきます。</p> <p>また，公共交通における乗り継ぎ時の負担軽減，移動円滑化等利用環境の充実に努めることにより，効率的・効果的な公共交通ネットワークの構築を目指していきます。</p>	
<p>主な事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域協働によるまちづくりの推進（ゆめづくり地域協働プログラムに基づく自主的で自立した地域活動の支援，地域おこし協力隊の活用等） ・ 公共交通ネットワークの確保（公共交通の運行支援等）
<p>目標</p>	<p>まちづくり委員会等が取り組む新たな課題解決への取組件数 H27～H31：20件</p> <p>公共交通に対する市民の満足度 H26：16.2% → H31:25.0%</p>

4 まち・ひと・しごと創生の実現に向けて

(1) 多様な主体との連携方策

ア 地域との連携の推進（地域の拠点の形成推進）

身近な地域で住民の生活に必要な生活サービス機能を確保するとともに、にぎわいを創出することができるよう、多様な主体との連携による地域の拠点づくりを推進します。

(7) 地域活動団体との連携

自治会や女性会，民生委員児童委員協議会，まちづくり委員会等の様々な地域活動団体と連携しながら，「特色ある地域資源を活かした地域の活性化」や「地域固有の課題の解決」に取り組んでいきます。

(イ) ボランティア・NPO団体との連携

子育て支援や高齢者福祉など，様々な分野で活動するボランティアやNPO団体と連携しながら，これらの団体等が持つ特性（専門性，迅速性，柔軟性など）を活かした課題解決に取り組んでいきます。

(ウ) 地域おこし協力隊の活用

人口減少・少子高齢化の進展が著しい過疎地域の活性化に取り組む意欲のある若者を「地域おこし協力隊」として受け入れ，新たな視点や若い世代の行動力を活かし地域の活性化を図っていきます。

イ 大学，医療機関，企業，金融機関との連携の推進

行政が関与しにくい専門的な分野について，大学や医療機関，企業，金融機関との連携により取り組んでいきます。

(7) 大学（高等教育機関）との連携

包括連携協力協定等に基づき，大学（高等教育機関）が有する専門性を活かしながら，福祉・医療やものづくり，スポーツなどの施策（市民向け講座等）を連携して実施することにより，市民の知的意欲や知識の向上を支援していきます。

(イ) 医療機関との連携

呉市の恵まれた医療環境を最大限に活かしながら，健康づくりや子育て支援などに係る施策を連携して実施することにより，市民の健康づくりの推進や妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援を充実させていきます。

(ウ) 企業との連携

呉市の産業が持つ多様な技術や魅力を広く情報発信するとともに、これらを活かした就職支援や地域づくりへの参画を連携して実施することにより、産業（企業）の認知度を高めるとともに、市内就職の促進を図っていきます。

(エ) 金融機関との連携

包括連携協定等に基づき、金融機関が有する専門的なノウハウや情報、ネットワークを活かしながら、創業にチャレンジする企業等への支援や定住・移住支援などに連携して取り組むことにより、企業の更なる成長や定住・移住促進を図っていきます。

(オ) 複数の主体とのコラボレーション

「技術系高等教育機関とものづくり企業」や「医療系高等教育機関と福祉・医療機関」、「高等教育機関、企業及び金融機関」など、複数の主体によるコラボレーション（理論と実務の融合）を通じて、より高度で多角的な視点による課題解決を図っていきます。

ウ 都市間連携の推進

各都市が持つ特性を活かし、新たな魅力を創出するため、近隣都市や旧軍港市との連携を推進します。

(ア) 近隣都市との連携

a 広島市を中心とする連携

広島市を中心とする「連携中枢都市圏」の構築に参画し、構成都市が一体となって、圏域全体の様々な生活関連機能サービスの向上を図っていきます。

b 呉市を中心とする連携

呉地域観光連絡協議会（呉市、江田島市、熊野町、坂町）や呉地域オープンカレッジネットワーク会議（呉市、坂町）などを通じて、共通する課題の解決に向けた更なる連携強化を図っていきます。

(イ) 旧軍港市との連携

旧軍港4市の連携した活動により、旧軍港市特有の課題の解決に向け取り組んでいきます。また、旧軍港4市に残る歴史的遺産の共通ブランド化を通じて、新たな魅力づくりや観光・交流の促進を図っていきます。

5 リーディングプロジェクト

【基本目標1】働きやすさの向上（しごとづくり）

① 積極的な企業誘致・留置活動の展開		
<p>呉市企業立地条例に基づく助成制度を最大限に活用した積極的な企業誘致を展開し、産業の集積と雇用の創出を図るとともに、市内企業が行う生産性の向上や設備の老朽化等に伴う投資など市内企業の設備投資を促進し、市内操業の継続と雇用の安定を図ります。</p>		
主な取組	実施期間	概算事業費
積極的な企業誘致活動の展開	H27～H31	3,000万円
企業立地の推進	H27～H31	22億1,200万円
本社機能の移転等促進	H28～H31	—
市内企業の設備投資促進	H28～H31	—
目標	産業団地への新たな立地企業数 H27～H31：10件 新たな設備投資に伴う新規雇用従業員数 H27～H31：240人	

② 都市ブランド力の向上		
<p>呉市の観光振興の核である大和ミュージアムを中心としたエリアのにぎわいづくりや、旧海軍が遺した技術や都市基盤を活かした新たな魅力づくりなど、呉らしさ（呉の特色）を活かした都市ブランド力の向上により、多くの人が集い交流する場を創出し、消費拡大や雇用創出を図ります。</p>		
主な取組	実施期間	概算事業費
戦艦「大和」のふるさと・くれブランドの向上	H27～H31	1億円
日本遺産の登録申請	H27～H31	—
目標	呉市の認知度（東京都・大阪府在住者（20～60歳代）のうち「呉市に住んでいたことがある」「呉市に行ったことがある」「呉市を知っている」「呉市について聞いたことがある」と答える人の割合） H27：93.1% → H31：95% 大和ミュージアム年間来館者数 H26：87.6万人 → H31：90万人 入込観光客数 H26：308万人 → H31：340万人 1人当たり観光消費額 H26：6,061円 → H31：6,370円	

③ 第3次産業の魅力向上		
魅力ある商業施設の新たな出店奨励や人口減少・少子高齢化の著しい島しょ部の活性化に結びつく新たなサービスの提供の促進など、第3次産業の裾野の拡大を図り、雇用の創出と地域経済の活性化を図ります。		
主な取組	実施期間	概算事業費
商業施設等の活性化支援	H27～H31	11億6,100万円
周遊・滞在型観光の推進	H27～H31	7,300万円
目標	新規出店件数，島しょ部における新サービス実施件数 H27～H31：80件	

④ 産地育成・ブランド化の推進		
特色ある地域資源について、競争力の高い産地となるよう育成支援するとともに、産品の高付加価値化や6次産業化，販路拡大などを総合的に展開することにより，農水産業の担い手の確保や耕作放棄地の有効活用，経営基盤の強化などを通じた地域の活性化を図っていきます。		
主な取組	実施期間	概算事業費
産地育成・地産地消の推進	H27～H31	4,500万円
農水産品のブランド化・6次産業化の推進	H27～H31	4,200万円
目標	6次産業化事業数 H27～H31：5件 呉の特産として認知する市民が50%を超える農水産品数 H26：3品 → H31：8品	

⑤ 未来を担う人材の育成		
市内の高等教育機関等において、将来介護や看護，保育などの職に就くことを目指して学ぶ学生が，卒業後，市内の事業所等に就職しやすくなるよう支援することにより，専門職の人材の確保と若年層の市内定着を図ります。		
主な取組	実施期間	概算事業費
福祉医療人材（介護・看護・保育）養成確保奨学金制度の創設検討	H28～H31	—
目標	福祉医療人材（介護・看護・保育）養成確保奨学金制度の創設	

【基本目標2】育てやすさの向上（ひとづくり）

⑥ 「妊娠・出産・子育て」の切れ目のない支援		
<p>妊産婦やその家族を総合的に支援する拠点（子育て世代包括支援センター）を設置し、産前産後における様々なニーズにきめ細かく対応することにより、安心して子どもを産み育てることができる環境を創出します。</p>		
主な取組	実施期間	概算事業費
妊娠から出産・育児までの包括支援	H28～H31	6,400万円
不妊治療の支援	H28～H31	1億7,600万円
目標	子育て中にストレスを感じる親の割合 H25：87.4% → H31：82.0%	

⑦ 子育て家庭の応援		
<p>民間活力を活用して、保育サービスや放課後児童会の充実を図るとともに、子どもの年齢・月齢を問わず安心して遊ぶことができる空間の整備を進めることにより、多様化する子育てニーズに対応するとともに、子どもの健やかな育ちを後押しします。</p>		
主な取組	実施期間	概算事業費
子育て支援センターの充実	H27～H31	9,900万円
ファミリー・サポート・センター事業の充実	H27～H31	4,200万円
保育サービスの充実（病児・病後児保育の充実、認可保育施設等への支援の充実等）	H27～H31	4億700万円
放課後児童会の充実（民間児童会への助成等）	H27～H31	8,100万円
目標	ファミリー・サポート・センター利用件数 H26：2,107件 → H31：2,300件 病児・病後児保育実施施設数 H26：2箇所 → H31：4箇所	

⑧ 小中学校教育の充実

呉の教育の特色である小中一貫教育の更なる推進を図るとともに、呉市の特性を活かした教育活動として、市内の企業や高等教育機関等と連携した本物体験等の活動を充実させ、「確かな学力」、「豊かな心」及び「健やかな体」を育てていきます。

主な取組		実施期間	概算事業費
小中一貫教育の更なる推進		H27～H31	1億6,000万円
特色ある呉の教育の推進（ふるさと子ども夢実現事業の推進，ものづくり体験事業等）		H27～H31	7,500万円
目標	将来に夢や希望を持っている子どもの割合 （小学生）H26：92.9% → H31：95% （中学生）H26：78.4% → H31：80% 呉市（公共）への貢献意欲がある中学生の割合 H31：75%		

⑨ 大学と連携したアスリートの育成

スポーツ振興に関する協定を締結した大学（日本体育大学）と連携して、大学が持つ知識や技術，人材を活用した技術指導を行うことにより，子どもたちの競技力の向上を図ります。

主な取組		実施期間	概算事業費
大学と連携したアスリートの育成		H28～H31	700万円
目標	全国大会出場件数 H26：32件 → H31：40件		

【基本目標3】暮らしやすさの向上（まちづくり）

⑩ 定住・移住サポートの総合窓口化		
民間事業者等や庁内関係部署等との連携を強化し、定住・移住を支援する定住サポートセンターの総合窓口化を推進することにより、定住・移住希望者への情報提供や相談体制の充実を図ります。		
主な取組	実施期間	概算事業費
定住サポートセンターの充実	H27～H31	—
目標	定住サポートセンター問合せ件数 H27～H31：1,000件 空き家バンク登録物件の成約件数 H27～H31：70件	

⑪ 定住・移住促進		
若年層が市内で住宅を取得しやすいよう支援するとともに、空き家の利活用を促進することにより、市外への転出抑制と市外からの転入促進を図り、人口社会減の抑制に結び付けます。		
主な取組	実施期間	概算事業費
子育て世帯の定住支援（中古住宅取得支援，親世帯との近居支援）	H28～H31	8,000万円
移住希望者の住宅取得支援（中古住宅取得支援，子育て世帯支援，親世帯との近居支援，島しょ部移住支援）	H28～H31	8,000万円
空き家家財道具等処分支援	H28～H31	2,000万円
学生シェアハウス支援（リフォーム支援等）	H28～H31	400万円
目標	若年層の住宅取得件数 H28～H31：200件 移住希望者の住宅取得件数 H28～H31：80件	

⑫ 健康寿命の延伸（日本一の健康長寿のまち）

地域ぐるみの健康づくり活動やスポーツを通じた健康づくりなど，日常生活の一部として健康づくりに親しむ環境を整えるとともに，恵まれた医療環境を活かした生活習慣病の重症化予防に取り組むことにより，市民の健康寿命の更なる延伸を図ります。

主な取組		実施期間	概算事業費
地域総合チーム医療の推進		H27～H31	1億1,700万円
地域包括ケアの推進		H27～H31	15億2,900万円
大学と連携した健康づくり普及促進		H28～H31	400万円
目標	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加		

⑬ 呉市版CCRCの検討

東京圏を始めとする地域から移り住んだ元気な高齢者が，多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り，必要に応じて医療・介護サービスを受けることができるコミュニティ（呉市版CCRC）について，呉市への導入について検討を進めます。

主な取組		実施期間	概算事業費
呉市版生涯活躍のまち（CCRC）構想		H27～H31	500万円
目標	呉市版CCRC推進協議会の設置		